

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

小児の夜間を含む尿禁制獲得時期に関与する因子～縦断的コホート研究(エコチル調査より)～: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's study

和文タイトル:

小児の夜間を含む尿禁制獲得時期に関与する因子～縦断的コホート研究(エコチル調査より)～: The Yamanashi Adjunct Study of the Japan Environment and Children's study

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター(山梨)

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 日本小児泌尿器科学会雑誌

年: 2023 DOI:

筆頭著者名: 志村 寛史

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター(山梨)

目的:

ヒトは幼児期以降に次第に尿禁制を獲得していくが、胎児期や出生時、そしてその後の成長・発達過程における様々な素因と、尿禁制獲得の時期とを縦断的に調査した報告はない。小児の夜間を含めた尿禁制獲得時期に関与する因子を縦断的コホート研究にて検討した。

方法:

対象は 2017 年度に山梨大学の調査に登録した 3 歳児のうち、2021 年度までの 5 年間で解析に必要なデータが得られた 437 例である。質問票により尿禁制獲得に関与すると想定される因子と尿禁制獲得時期を調査し、先行研究から関連があると報告される 100 近くの項目で log-rank 検定を行い、さらに多変量解析も行った。

結果:

log-rank 検定では、女児、布おむつの使用、35 歳未満での出産、経膈分娩、3 歳までの排便の自立、3 歳時の ASQ-3(幼児の発達を評価する質問票)でのコミュニケーション・粗大運動・問題解決・対人社会性の項がカットオフ値以上の場合などに、有意により早い年齢で尿禁制を獲得する結果となった。多変量解析では、布おむつの使用、3 歳までの排便の自立が有意に早期の尿禁制獲得に関与する因子であった。

考察(研究の限界を含める):

排便の自立度もまた多変量解析で早期の尿禁制獲得に関与する因子であった。過去の縦断的調査で示している通り、まず大便の禁制、そして昼間の尿禁制、最後に夜間の尿禁制と段階的に獲得していくことを再確認する結果でもある。本研究は数多くの因子について尿禁制獲得の時間解析を行った初の報告である。さらに、一般的なコホートを対象とした前向き研究であり、選択バイアスを除いた信頼性の高い結果と考えている。今後もフォローを可能な限り継続し、小児の尿禁制獲得のための因子を検証していきたい。

結論:

小児の尿禁制獲得時期に影響する多数の因子を検討した初の縦断的調査である。排便の自立度が尿禁制獲得に強く関与していたことは諸家の報告通りであったが、一般的なコホートを対象とした前向き研究方法から得られた。これまでの研究よりも信頼性の高い知見である。